

## 硝酸塩観測データの利用状況

前年度に引き続き、平成26年10月2日～平成27年3月16日の間、児島湾沖のノリ漁場において硝酸塩濃度の連続観測を行い、水産研究所のホームページにデータ公開した。

現場の実測値とセンサー値の関係(図1)を基に補正した値の推移をみると、観測当初の硝酸塩濃度は $2\mu\text{M}$ 程度と低い水準であった(図2)。その後、10月中旬に上陸した台風19号による降雨等により栄養塩が供給され、センサー値は上昇し、11月上旬には $10\mu\text{M}$ 以上となった。平成27年の2月中旬には $1\mu\text{M}$ 以下まで低下したが、散発的な降雨によって、陸域から栄養塩が供給されたため、一定程度の濃度は常に維持されていた。

ホームページへのアクセス数は11,641件、日平均アクセス数は約80件で、前年度と比較して、一日当たりのアクセス数は約1.5倍、合計アクセス数は約3倍であった。

今後は、ノリ漁業者の方々にアンケートを行って、利用実態を把握するとともに、より精度を高めていきたい。

(水圏環境室：渡辺)

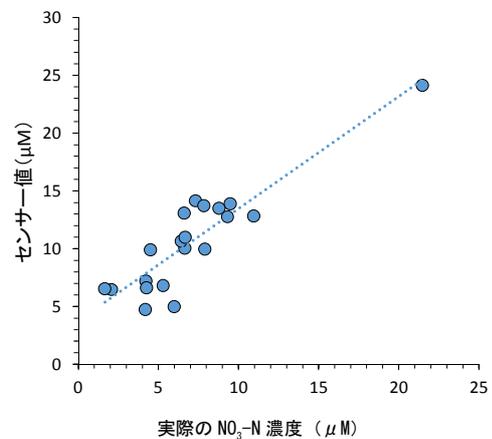


図1 実測値とセンサー値の関係

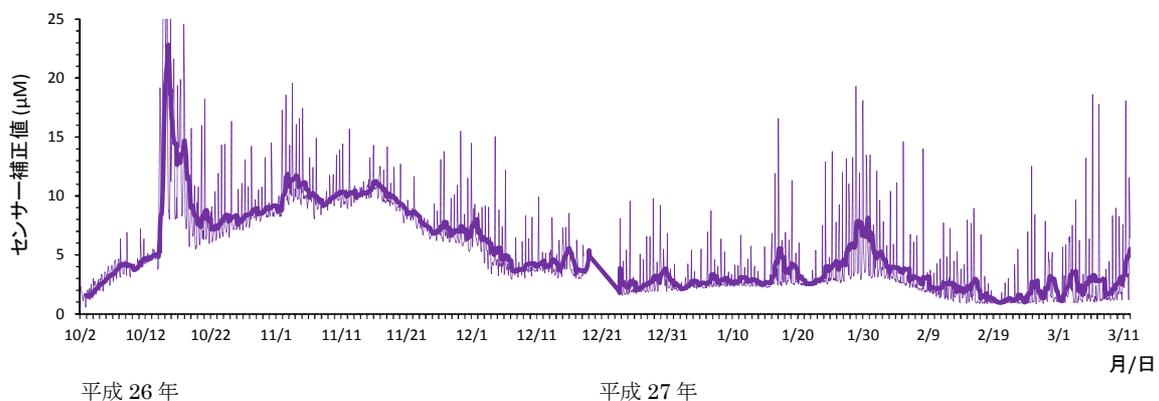


図2 センサー補正值の推移